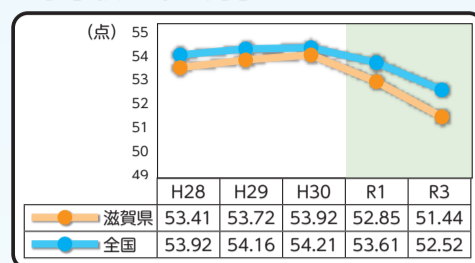


運動の楽しさ・大切さを感じて、健やか元気&体力向上!

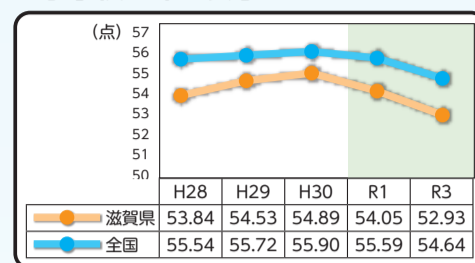
元気で健康な生活をするために体力を高めよう!!

「滋賀県の新体力テスト合計点の推移(全国平均値との比較)」

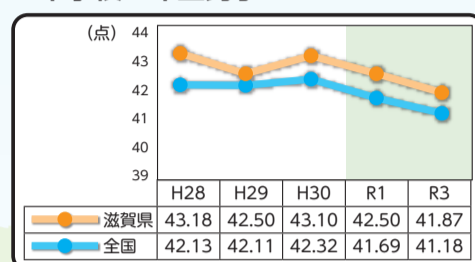
<小学校5年生男子>



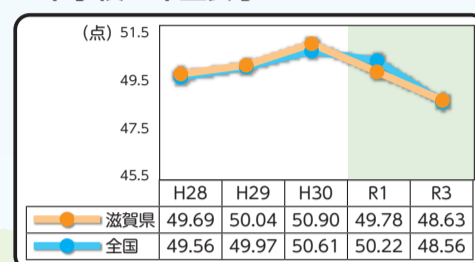
<小学校5年生女子>



<中学校2年生男子>



<中学校2年生女子>



【新体力テストの種目】握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・20mシャトルラン(持久走)・50m走・立ち幅跳び・ソフトボール投げ(ハンドボール投げ)
 ※中学生は、20mシャトルラン、持久走より選択。ハンドボール投げを実施。
 ※体力合計点は、各種目の成績を得点化した8種目の合計点。
 ※令和2年度は未実施。

「令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(対象：小学校5年生・中学校2年生)の結果をお知らせします。滋賀県の子どもの体力合計点は、令和元年度を下回る結果となりました。県教育委員会では、子どもたちの健やかな体を育むため、運動への愛好的態度の育成と運動の習慣化に取り組んでいきます。

体力向上に向けた取組 (草津市立山田小学校)

「TEAM山田小学校「体力向上のひみつ」」

①草津市チャレンジタイム
草津市が作成した「運動プログラム」を活用し、体育の授業ごとに、体力向上に向けた取組を数分間実施しています。



②清水体育賞
地域由来で80年以上続く歴史ある取組! 新体力テストの成績・健康作文を表彰することで、運動意欲の向上と、心と体の健康を大切に考えられるように取り組んでいます。



運動習慣等の調査結果から

本県の体力合計点の低下の要因に、①スクリーンタイムの増加 ②運動時間の減少が考えられます。

2時間以上のスクリーンタイムの割合(%)

	令和元年度	令和3年度	差
小学校5年生男子	62.4	63.5	+1.1
小学校5年生女子	46.6	54.2	+7.6
中学校2年生男子	69.4	75.2	+5.8
中学校2年生女子	66.7	72.8	+6.1

1週間の総運動時間(分)

	令和元年度	令和3年度	差
小学校5年生男子	558.86	527.53	-31.33
小学校5年生女子	330.20	313.49	-16.71
中学校2年生男子	838.38	762.21	-76.17
中学校2年生女子	591.48	548.07	-43.41

「スクリーンタイム」とは、平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間(学習は除く)のことです。全ての対象で増加しています。

「1週間の総運動時間」とは、体育の授業以外の運動時間のことです。全ての対象で減少しています。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、学校での休み時間や家庭での過ごし方が変化したことにより、総運動時間が減少しました。一方で、「スクリーンタイム」は家庭での過ごし方の変化が要因となって増加しており、総運動時間の減少とスクリーンタイムの増加には、相関関係があると考えられます。県教育委員会では、体力向上や健康的な生活に向け、楽しく運動機会を増やせるよう「**体育の宿題**」「**お家でもチャレンジ**」「**元気アップチャンネル**」などを作成しました。ぜひご家庭の皆さんと一緒にチャレンジしてください。



「速く走る」「速くに投げる」「すばやく動く」ためのポイント解説などもあるよ! ぜひ、試してみてください!



詳しくはこちらをご覧ください

問合せ先 保健体育課 077-528-4627

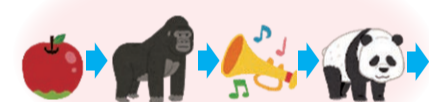
幼小接続 小学校 新1年生を応援!家庭でできる学習の準備

「遊び」から「学習」へ

小学校では、幼児期の遊びを通じた学びが各教科等の学習につながるよう、入学当初は幼児期の生活に近い活動を取り入れながら学習を進めています。

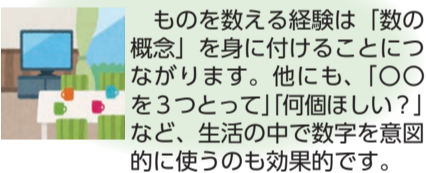
ここでは、ご家庭でもできる学習の準備をご紹介します。お子さんと一緒に取り組んでみませんか?

準備例 1 しりとりをする



昔からある言葉遊びです。語彙を増やすなど、いろいろな効果が期待できます。

準備例 2 いろいろなものを数える



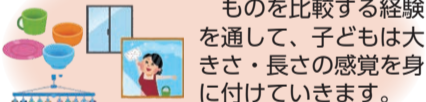
ものを数える経験は「数の概念」を身に付けることにつながります。他にも、「〇〇を3つとって」「何個ほしい?」など、生活の中で数字を意図的に使うのも効果的です。

準備例 3 見つけたものを話したり、絵に描いたりする



子どもは、発見の名人です。そして、発見したことは、誰かに伝えたいです。その気持ちを大切に、うまく生かしながら、「伝える力」を伸ばしましょう。

準備例 4 ものの大きさを比べる



ものを比較する経験を通して、子どもは大きさ・長さの感覚を身に付けていきます。「どうしてそう思ったの?」と考える理由を聞くことも大切です。

他にも
 知っている歌(曲)を歌う・踊る
 学校生活の1日について話す
 自分の名前や家族の名前を読む など

大切なのは、少しずつ無理なく取り組むことと、楽しみながら一緒に行うことです。子どもの発見と一緒に驚き、できたことを一緒に喜んでください。そして、たくさん頑張りを認め、たくさん褒めてあげてください。そうすることで、子どもは自信をもって、のびのびと学んでいきます。

問合せ先 幼小中教育課 ☎077-528-4662

新学年をスタートした子どもたち

～早めの気づき・対応・相談が大切です～

新しい学年がスタートし、子どもたちは毎日が期待と不安で一杯ではないでしょうか。そんな時だからこそ、ちょっとしたことで心身が不調になりがちです。

いつも違う様子 気になるサイン

- 表情がさえない
- ぼんやりしている
- 部屋にこもりがち
- 口数がへる
- 落ちつきがない
- 朝、起きられない
- 頭痛や腹痛を訴える
- 食欲がない
- 学校や勉強の話題をさける
- やたらと学校のことを気にする

授業であてられて答えられなかった
 クラスの人たちとうまく話せなかった
 授業や宿題がしんどい
 一緒に過ごす友だちがいない

★ご家庭で気をつけていただきたいこと★

- ▶子どもの**つばやきやいつも違う様子**を見逃さないようにしましょう。
- ▶睡眠や食事など**健康把握**をしっかりとしましょう。(心の不調は体に表れやすいです)
- ▶話はじっくりと聞きましょう。**否定をしないで**、落ち着いて聞くことを心がけましょう。
- ▶家が**リラックス**できる居場所になるようにしましょう。団らんの時間を大切に。
- ▶GWなど休日も生活リズムをくずさないようにしましょう。
- ▶さまざまなことでも、気になることは、学校の先生やスクールカウンセラー、相談機関、医療機関等に**相談**するようにしましょう。(早期対応が大切です)

不登校や行きしぶりなどについては、当センターまでご相談ください。
 問合せ先 滋賀県心の教育相談センター ☎077-586-8125

すまいる・あくしよん
頼れる人や場所を見つけよう!
 県内には子どもたちが安心して集まれる子ども食堂や児童館が運営されています。また、県では子どもたちが困った時や悩んだ時に相談できる窓口を設けています。

子どもたちに気軽に立ち寄れる場所やいつでも相談できる窓口を伝え、子どもたちが人とつながりや喜びを感じられる居場所を作りましょう!

問合せ先 子ども・青少年局 077-528-3550

今回の『**おすすめ本**』
 かみなりさんに困っている村の人たちを助けようと「くさまお」という男の子が立ち上がります。
 病気で右手をなくした三橋節子さんが、滋賀の昔話をもとに左手で描き残した美しい情景の絵本です。

「雷の落ちない村」三橋 節子 作 鈴木 靖将 補作 小学館 (小学校1～3年生向け)

子ども読書啓発冊子「本がいっぱいシリーズ」からの抜粋です。もっといろいろな本が知りたい方は「におねと」にデジタル版を掲載しています。ぜひご覧ください。

「におねと」子ども読書活動支援センターのHPはこちら

問合せ先 生涯学習課 ☎077-528-4652

つちのプログラム
 滋賀県立陶芸の森/世界にひとつの宝物づくり実行委員会では、来園制作・見学、出張授業などで、毎年1万人以上の子どもたちや障害者の方々にご参加いただいています。昨年度は新型コロナウイルス感染症を予防し、3密を避ける対策を行いながら実施しました。子どもたちは思い思いの作品を作ったり、陶芸の森では美術作品の鑑賞や広場でのびのびと楽しい時間を過ごしました。今年も参加型のイベント等を予定しておりますので、ぜひご参加ください。

問合せ先 滋賀県立陶芸の森 0748-83-0909 (代)

「**第72回全国植樹祭しが2022**」は今年6月5日開催!
 豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、47年ぶりに滋賀県で全国植樹祭が開催されます。甲賀市にある「鹿深夢の森」の式典会場を中心に、県内外全10会場で様々な催しを実施します。

大会を通じて植樹する苗木の一部を令和元年から3年間、森林環境学習「やまのこ」を通じて県内の児童の皆さんに育てていただきました。その総数はなんと約1,800本にもものぼります! 児童の皆さん、ご協力ありがとうございました! 育てていただいた苗木は、県内3カ所の一般植樹会場で植樹いただけます。一般植樹会場で実際に植樹してみませんか?

各会場などの詳しい情報はHPからご確認ください。 全国植樹祭 滋賀 で検索
 問合せ先 全国植樹祭推進室 077-528-3970

JRC 青少年赤十字活動
 ★創設100周年★
 1922年(大正11年)に現在の守山小学校で、わが国最初の青少年赤十字が誕生しました。100周年を迎え、活動は全国に広がっています。

JRCの合言葉 **「気づき・考え・実行する」**
 「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」という目標のもと、それぞれの学校で実践を重ねています。子どもたちは、自分の周りにおける課題に気づき、解決に向けて意見を出し合い学習を進めます。100年間の活動の財産を引き継いで、これからも自分で考え、仲間と協力して実行する力の育成を目指していきます。

子どもと大人が意見を出し合い、防災について考える学習(甲賀市立甲南第三小学校)
 問合せ先 幼小中教育課 ☎077-528-4665

特別支援教育の視点に立った「**個別最適な学び**」の推進
 滋賀県教育委員会では、拠点地域に発達障害支援アドバイザーを派遣し、通常の学級で特別な支援を必要とする児童生徒の個別最適な学びの実現を目指して、教員の指導力の向上に取り組んでいます。

個別の指導計画と日々の教科指導とを密接につなぎ、一人ひとりに応じた指導・支援を通じて、自分に合った学び方がわかることで意欲を高め、主体的に学習に取り組む姿勢を育みます。

このような取組や、ICT機器等を効果的に活用した実践事例等を蓄積し、県内での活用がより広がるように発信していきます。

問合せ先 特別支援教育課 ☎077-528-4641

祖父の笑顔
 幼い頃の私は、裏山へ行って自然の中で遊ぶのが大好きな子どもでした。両親が共働きだったこともあり、それはいつも祖父がいて、私のことを笑顔で見守ってくださっていました。祖父は、車の運転が好きで、幼い私を乗せているんな所へ連れて行ってくださいました。祖父は、頑固な性格でもあり、自分の考えを簡単には曲げず、祖母や母が意見をしても素直に聞くことは、まずなかったそうです。しかし、孫の私の言うことだけは、「そうやなあ」と聞き入れてくれるのでした。

二十年あまりの月日が経過し、私は社会人として実家を離れて生活するようになった。結婚し、家庭を持つてからは、祖父に会う機会がずいぶん減りました。八十歳の誕生日を終えた翌年、祖父が脳梗塞で倒れ入院したことを母からの電話で知りました。突然の連絡にどうしてよいかわからないうちに、一月ほどで退院できた。初めは母から聞いた時には、ほっとしました。数日後、見舞いに呼ばれ、母からこんなことを伝えられました。

「今回の事で、退院しても、今までと同じような生活は難しいやろな。もう車の運転は無理やと思う。」
 母は、この機会に祖父に運転免許返納を勧めようと思っただけで、自分が言っても聞き入れてくれないかもしれない。そこで、私から話を聞いてほしいと言った。病室に戻った私は祖父としばらく談笑する中で、思い切って運転免許返納の話を持ち出した。それまで笑っていた祖父は、今更に見たこともない切ない表情になりましたが、しばらく考えた後、小さくうなずいてくれました。

退院して、しばらくしたころ、祖父が心配で様子を見に行きました。家の前の畑にいた祖父に私は「行きたくいところを簡単に行けなくなって不便やろ。いつでも運転するで」と、声をかけました。すると、祖父はじつと私の顔を見て、「さう言いました。」「ゆっくり歩くのもええぞ。」「いろいろな幸せが見えてくるから。」
 その時は、祖父の返答の意味がよく分かりませんでした。だが、母の一言で理解できました。
 「じいちゃん、私が植えた花を見て、とても良い笑顔してたんよ。今まで花なんて見向きもなかったのに。」
 私の中に、「老化」は辛いこと、車を運転できなくなると、その時初めて気づきました。そして、人生の大先輩に「幸せを感じる方は人それぞれで、年齢とは関係ない。」そんなことを教えてもらった気がしています。

もうすぐ桜の季節です。私が幼い頃に祖父と一緒に過ごした思い出の裏山まで、祖父とゆっくり散歩して、一緒に桜を楽しみたいと思っただけです。当時の私と同じくらい年齢になった我が子たちを連れて。

問合せ先 生涯学習課 ☎077-528-4652